

# 消防年報



(鈴鹿市南消防署天名分署 令和5年5月竣工)

## 鈴鹿市消防本部

令和4年版 (令和5年刊行)



# 目 次

鈴鹿市の概況	1
鈴鹿市の位置 / 消防署の位置	2
組織編	
消防の沿革	5
消防庁舎	18
鈴鹿消防の組織	22
総務編	
消防の予算	25
一般会計予算に対する消防予算(当初) / 令和5年度消防予算(当初)	
消防予算の内訳	26
在職年数別消防職員数・年齢別消防職員数	27
消防職員資格取得状況	28
予防編	
防火対象物一覧表	31
防火・防災管理者講習修了証交付状況 / 消防訓練届出状況	32
防火対象物建築同意件数	33
消防用設備等の指導	34
危険物の規制・指導	35
危険物製造所等の許可の状況 / 危険物製造所等の施設推移状況 / 危険物関係手数料収入状況	36
警防編	
消防通信施設状況	39
消防本部(署)通信施設・機器 / 消防団通信機器 / 気象観測機器	
緊急通報取扱状況	40
災害種別取扱状況 / 受付別取扱状況	
消防車両現有状況	41
消防水利状況	42

## 火災統計編

火災件数の推移（過去5年間）／ 火災種別構成比

用途別建物火災の状況	4 5
出火原因／ 死傷者数／ 火災損害等	4 6

## 救急・救助統計編

救急概要／ 救急活動の現状／ 過去5年間の救急活動状況	4 9
月別出動件数及び搬送人員	5 0
時間別出動件数及び搬送人員	5 1
地区別出動件数／ 年齢区分別搬送人員	5 2
現場到着所要時間別出動件数／ 収容所要時間別搬送人員	
医療機関別搬送人員／ 応急手当普及啓発活動状況	5 3
救助出動の状況	5 4
月別出動件数／ 事故種別・発生場所別出動状況	

## 消防団編

消防団組織図	5 7
消防団員現勢	5 8
在職年数別消防団員数／ 年齢別消防団員数	5 9
消防団消防自動車現有状況	6 0
消防団主要行事	6 1

この年報は、鈴鹿市の消防現勢と、令和4年中における消防諸般の状況を集録し、将来の消防対策の参考に供する目的をもって編さんしたものです。

特に記載をしてあるものを除き、令和4年12月末日をもって集録しました。

## 鈴鹿市の概況

本市は、昭和17年12月、2町12カ村が合併し、新市として誕生しました。三重県の中北部に位置し、東は伊勢湾に面し、西は鈴鹿山脈で滋賀県に接するほか亀山市と接し、北は四日市市に、また、南は津市に接しています。新名神高速道路、東名阪自動車道、国道1号、国道23号、国道306号等幹線道路を軸とし、これらに県道、市道が連結しており、名古屋から約50km、大阪から約120km、京都から約90kmの距離にあり、中部圏はもとより近畿圏からも比較的近い距離にあります。

気候は、年平均気温17度程度、年平均降水量は1,600mm程度で比較的温暖ですが、冬は養老山地と伊吹山の間を抜けてくる強風（俗に「鈴鹿おろし」という。）のために寒く、市の北西部では比較的降雪量も多く、まれには海岸部まで積雪が見られることがあります。

市の概形は、東西22.6km、南北21.9kmの扇形に近い形で、面積194.46km<sup>2</sup>を有しています。鈴鹿川右岸から海岸にかけての海拔0mから、海拔900mの鈴鹿山脈までの起伏があり、北部から西南部にかけては50～80mの丘陵地を形成しています。

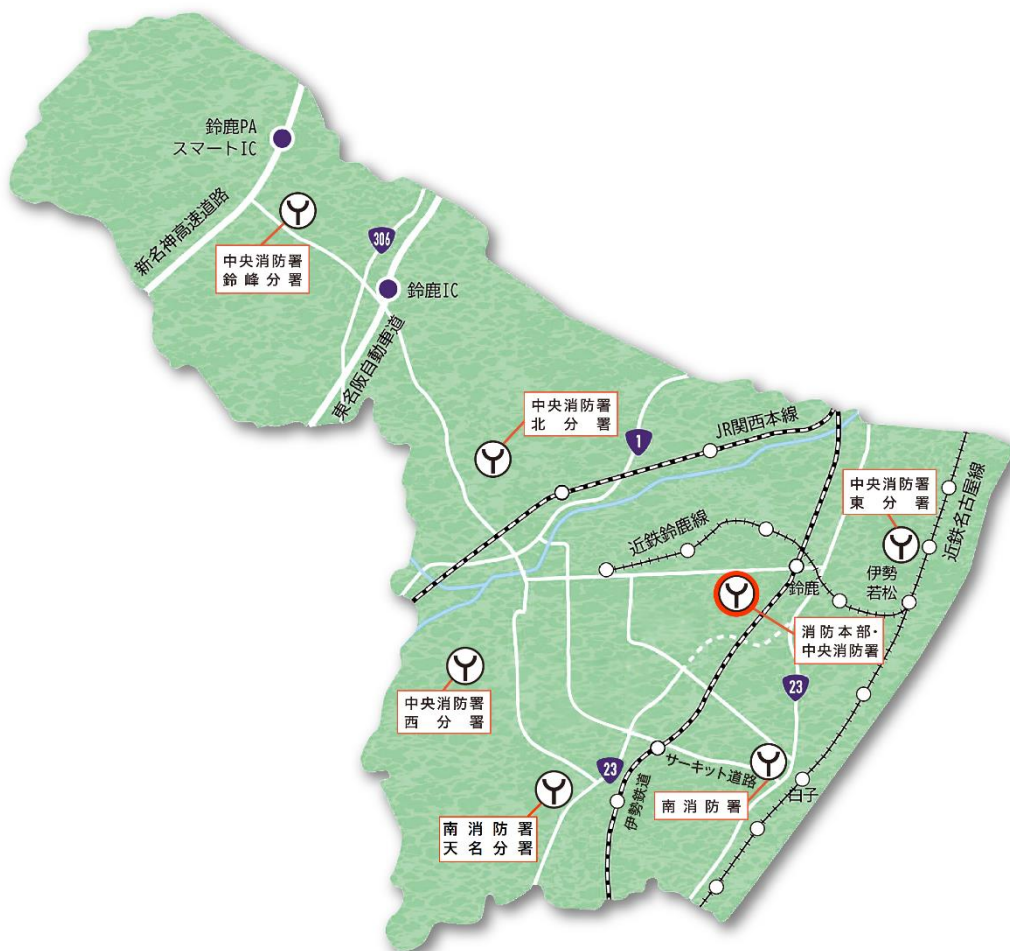
このような恵まれた自然環境の中で、本市は自動車産業など数多くの企業を誘致し、伊勢湾岸地域有数の内陸工業都市として発展してきました。また、農業においても、恵まれた豊かな大地で、茶や花木をはじめ、水稻などの生産が活発に行われ、農業と工業がともに成長して現在に至っています。

1 位 置	東経 136度35分	北緯 34度52分
2 市 域	東西 22.6 km	南北 21.9 km
3 面 積	194.46 km <sup>2</sup>	
4 人 口	195,958人（令和5年3月31日現在）	
5 世 帯 数	88,562世帯（令和5年3月31日現在）	
6 市制施行年月日	昭和17年12月 1 日	
7 消防本部設置年月日	昭和24年 5 月30日	
8 消防署設置年月日	昭和34年 9 月30日	

## 鈴鹿市の位置



## 消防署の位置



# 組 織 編







## 消防の沿革

年次	できごと
昭和22年 4月 7月 10月 12月	常備消防部設置 部員7人 消防ポンプ自動車1台 勅令第185号消防団令公布(4月30日)により鈴鹿市消防委員会設置される 鈴鹿市消防団条例制定 警防団解団 消防事務市町村に移譲 鈴鹿市消防団結団式举行 14地区 14消防分団 700人 ポンプ22台(四輪4台, 三輪7台及び手引11台)をもって発足 初代消防団長 浜口 仙吉 就任する
昭和23年 3月 7月	消防組織法施行 消防法施行
昭和24年 4月 5月 10月	初代消防団長 浜口 仙吉 退任し, 第2代消防団長に 宮木 虎雄 就任する 消防団条例の改正, 消防団設置規則の制定 消防団長1, 副団長3, 分団長14, 副分団長14, 班長61, 副班長65 及び団員526 常備消防部廃止 常備消防本部発足(5月7日) 常備消防本部廃止 市消防本部設置(10月20日) 消防職員10人 消防ポンプ自動車1台 初代消防長 杉本 龍造 就任(市長兼務)する
昭和27年 4月	消防職員14人となる。消防ポンプ自動車1台購入
昭和28年 7月 9月	☆鈴鹿簡易裁判所火災 消防庁舎新設 神戸矢田部町692番地に移転
昭和29年 4月 8月 12月	第2代消防団長 宮木 虎雄 退任し, 第3代消防団長に 服部 庄右エ門 就任する 河芸郡栄, 天名及び合川の3村合併し17消防分団となる 亀山市との境界変更により井田川村の一部を合併18消防分団となる 消防団員724人となる
昭和30年 4月 6月	市の南部, 白子町に消防本部白子屯所を設置 消防ポンプ自動車1台購入配置 消防職員22人となる ☆鈴鹿通信病院火災
昭和31年 7月 12月	市の西部, 加佐登町に消防本部加佐登西部仮屯所を設置 消防ポンプ自動車1台購入配置 消防職員29人となる ☆紡績工場宿泊所火災
昭和32年 4月	鈴鹿郡三鈴村, 同6月鈴峰村の一部を合併, 21消防分団となる
昭和33年 1月 6月 8月	☆三重県家畜基地農場火災 ☆白子町駅前飲食店火災 消防本部に短波無線電話2基新設, 消防職員36人となる
昭和34年 5月 9月 10月	第3代消防団長 服部 庄右エ門 退任し第4代消防団長に 勝田 平男 就任する 鈴鹿市消防署を設置, 白子屯所, 加佐登屯所を白子分所, 加佐登分所と改称 消防職員42人となる ☆伊勢湾台風襲来 初代消防長 杉本 龍造(市長兼務)退任し, 第2代消防長に 田中 甚之助 就任(専任)する

年次	できごと
昭和36年10月 12月	☆市立大木中学校火災 消防ポンプ自動車短波無線付1台購入，消防署白子分所に配置
昭和37年3月 4月 10月	☆市立千代崎中学校火災 消防職員44人となる 消防署加佐登分所の配置消防車に短波無線電話を備え機動化を図る
昭和38年1月 2月 4月	消防本部に指揮連絡車を配置 ☆鈴鹿電気通信学園火災 消防職員46人となる
昭和39年4月  5月 11月	☆市立牧田幼稚園火災 消防職員49人となる 消防署に救急車1台配置（鈴鹿ライオンズクラブより寄贈を受ける） 消防署に消防ポンプ自動車1台配置（日本損害保険協会より寄贈を受ける） ☆第2会議所(共同住宅)火災
昭和40年3月  12月	第2代消防長 田中 甚之助 退任し，消防長事務取扱い 福永 光雄 就任（市助役兼務）する 消防職員48人となる 消防長事務取扱い 福永 光雄 退任し，第3代消防長に 藤田 英一 就任（専任）する
昭和41年4月 8月	消防職員49人となる 消防新庁舎起工。所在地 飯野寺家町217番地の1 敷地面積 2,432.56㎡ 鉄筋コンクリート造一部2階建 望楼（28m） 延面積 848.64㎡倉庫（40㎡）昭和42年3月 竣工
昭和42年4月	鈴鹿郡鈴峰村合併により23消防分団505人となる 消防職員50人となる
昭和43年3月 4月	消防署に化学消防ポンプ自動車1台購入配置 消防職員51人となる 消防団員443人となる
昭和44年4月 11月	消防団員430人となる 消防署に救急車1台配置（鳴神 達典 氏 より寄贈を受ける） 消防署に消防ポンプ自動車1台購入配置
昭和45年4月  6月 10月	指揮連絡車更新 消防職員52人となる 車庫（48.60㎡）鉄骨スレートで建築 ☆市立加佐登小学校火災
昭和46年3月 4月 7月	第3代消防長 藤田 英一 退任する 第4代消防長に 奥川 春三 就任（専任）する 消防職員55人となる 消防ポンプ自動車超短波無線付1台購入，消防署加佐登分所に配置
昭和47年4月 10月	消防職員60人となる 消防ポンプ自動車超短波無線付1台購入，消防署白子分所に配置
昭和48年2月 4月	消防署に救急車1台配置（鈴鹿ロータリークラブより寄贈を受ける） 消防署白子分所，加佐登分所を白子分署，加佐登分署と改称

年次	できごと
昭和48年 4月 5月 6月 10月	消防職員65人となる 第4代消防団長 勝田 平男 退任し、第5代消防団長に <b>伊坂 正勝</b> 就任する 消防署に作業車1台購入配置 消防本部に指揮連絡車1台購入配置 <b>☆平田町 共同住宅火災</b> 消防署に屈折はしご車(15m級)1台購入配置
昭和49年 3月 4月 6月 7月 11月	消防署に救助隊(レンジャー隊)を編成 消防職員67人となる <b>☆神戸一丁目 百貨店火災</b> <b>☆7.25集中豪雨襲来</b> 消防署車庫増築(着工) 鉄骨造平屋建(212.93㎡) " 竣工 消防署に水槽付消防ポンプ自動車1台配置(日本損害保険協会より寄贈を受ける)
昭和50年 4月 11月 12月	消防職員74人となる <b>☆加佐登町 製箸所火災</b> 機構改革により消防本部に課を設け、1課4係とする(装備予防課, 庶務係, 整備企画係, 予防係及び危険物係) 消防ポンプ自動車超短波無線付1台購入, 消防署に配置
昭和51年 3月 4月 10月	消防署に救急車1台配置(エスシーアイリスより寄贈を受ける) 消防職員79人となる 消防署西分署起工 敷地面積1,554.33㎡ 鉄筋コンクリート造平屋建295.19㎡ 付属建物(ホース庫, 倉庫, 機械室)36.0㎡ 昭和52年2月竣工
昭和52年 2月 3月 4月 11月	<b>☆白子町 寺院火災</b> 消防署加佐登分署を消防署西分署と名称を改め開署する 第4代消防長 奥川 春三 退任する 第5代消防長に <b>西川 光男</b> 就任(専任)する 消防職員80人となる 水槽付消防ポンプ自動車1台購入, 消防署西分署に配置 消防署に救急車1台配置(三重県共済組合連合会より寄贈を受ける)
昭和53年 3月 4月 11月	救急車1台寄贈を受ける 消防職員85人となる 消防署西分署に救急車1台配置 <b>☆広瀬町 製茶会社火災</b> 消防庁舎増築工事着工 昭和54年3月竣工(2階会議室152.1㎡)
昭和54年 3月 4月 10月 12月	火災, 救急指令装置(B型)及びクロスパー式自動交換機設置 消防職員94人となる <b>☆稲生町 寺院火災</b> 消防庁舎増築工事着工 昭和55年3月竣工(消防署事務所等185.6㎡) 救急医療情報装置運用開始(44病医院)
昭和55年 2月	消防署に化学消防車1台購入配置

年次	できごと
昭和55年	4月 消防職員99人となる
5月	☆木田町 自動車部品工場火災
10月	機構改革により消防本部に1課を増設, 2課1室6係となる 消防署南分署起工 敷地面積1,964.81㎡ 延面積546.30㎡ 鉄筋コンクリート一部2階建 訓練塔 鉄骨造 高さ18m 昭和56年3月竣工
12月	水槽付消防ポンプ自動車1台購入
昭和56年	1月 救急車1台寄贈を受ける(三重県共済組合連合会)
4月	消防職員104人となる 第5代消防団長 伊坂 正勝 退任し, 第6代消防団長に 坂倉 健哉 就任する
5月	救急車1台寄贈を受ける(神尾 博 氏)
10月	広報車1台寄贈を受ける(鈴鹿市防火協会)
11月	☆西條町 店舗併用住宅火災
昭和57年	3月 車庫及び水防倉庫竣工(鉄骨造2階建 延面積584.94㎡) 消防署に救急車1台購入配置
4月	消防職員106人となる
6月	☆寺家町 飲食店火災
8月	指揮車1台寄贈を受ける(日本消防協会)
9月	☆花川町 製茶会社火災
11月	広報車1台寄贈を受ける((株)サンフーズ主婦の店) 消防署にはしご付消防ポンプ自動車(35m級)購入配置
昭和58年	2月 ☆寺家五丁目 飲食店火災
4月	消防職員109人となる
9月	第5代消防長 西川 光男 退任する
10月	第6代消防長に 川原田 昭 就任(専任)する 消防署西分署に消防ポンプ自動車1台購入配置 消防庁舎増築工事着工 昭和59年3月竣工(団本部室等 185.6㎡) ミニファックス 聴覚障害者との間に開通
12月	県医療情報装置運用開始
昭和59年	4月 消防職員112人となる 救急救助係を救急救助第1係, 同第2係に組織変更
8月	消防本部に超短波無線電話装置(基地局)1機増設, 2波運用体制となる
10月	消防署南分署に消防ポンプ自動車1台購入配置
11月	消防署に作業車1台購入配置
12月	広報車1台寄贈を受ける(日本消防協会) 消防署に救助工作車1台購入配置
昭和60年	4月 消防職員113人となる
10月	耐震性貯水槽(100㎡)設置開始(初年度1基, 神戸公園) 消防署西分署に水槽付消防ポンプ自動車1台配置 (日本損害保険協会より寄贈を受ける)
11月	消防署に消防ポンプ自動車1台購入配置 消防署に小型動力ポンプ付水槽車1台購入配置

年次	できごと
昭和60年12月	☆下大久保町 指定可燃物工場兼倉庫火災
昭和61年 4月 6月 10月 11月 12月	消防職員115人となる 消防団活性化モデル事業開始 耐震性貯水槽設置(1基, 白子コミュニティセンター) ☆国府町 自動車販売店火災 消防署に救急車1台購入配置
昭和62年 3月 4月 5月 10月 11月	第6代消防長 川原田 昭 退任する 第7代消防長に 中根 利彦 就任(専任)する 消防職員120人となる 第6代消防団長 坂倉 健哉 退任し, 第7代消防団長に 長谷川 清一 就任する 耐震性貯水槽設置(1基, 若松浜田神社) 消防団活性化モデル事業完了 無線吹鳴装置, 車載・携帯無線機及び受令機等全分団に配備
昭和63年 2月 4月 5月 10月	消防署南分署に救急車1台購入配置 消防署西分署に救急車1台購入配置 消防職員127人となる 消防団員437人となる ☆国府町 倉庫火災 連絡車2台更新 ☆東旭が丘二丁目 繊維工場作業場火災 コミュニティ消防センター起工 鉄骨造2階建675.0㎡ 消防車庫 鉄骨造平屋建108.0㎡ 平成元年2月竣工
平成元年 2月 3月 4月 5月 8月 9月 10月	☆西玉垣町 醸造会社火災 消防署南分署に水槽付消防ポンプ自動車1台購入配置 耐震性貯水槽設置(1基, 大池公園) 消防職員129人となる 機構改革により, 消防本部予防課に査察指導係を設置 救急通信波運用開始 ☆平田新町 百貨店火災 消防署新分署起工 敷地面積3,527.79㎡ 延面積685.17㎡ 鉄筋コンクリート造2階建 訓練塔兼ホース乾燥塔22m 訓練補助塔8.35m 平成2年3月竣工 予防係広報車更新 救急救助資機材等総合整備事業実施
平成2年 1月 3月 4月	☆若松東一丁目 共同住宅火災 消防ポンプ自動車1台購入 救急車1台購入 耐震性貯水槽設置(1基, 石薬師小学校) 消防署西分署開署(国府町3278番地の2)

年 次	で き ご と
平成 2年 4月 6月 9月 10月 11月	<p>(署の組織規則の一部改正により、新分署を消防署西分署、消防署西分署を消防署北分署に改める) 水槽付消防ポンプ自動車1台、消防ポンプ自動車及び救急車1台配置 消防本部1、消防署1及び分署3となる 消防職員138人となる</p> <p>☆神戸一丁目 店舗併用住宅火災 消防長車購入配置 山林火災用軽四輪トラック更新 人員搬送車議会事務局より移管 危険物係広報車更新 耐震性貯水槽設置(1基、長太ノ浦小学校)</p>
平成 3年 3月 4月 8月 9月 10月 12月	<p>消防署消防ポンプ自動車1台更新 消防職員141人となる</p> <p>☆柳町 作業所火災 広報車1台寄贈を受ける(鈴鹿市防火協会) 耐震性貯水槽設置(1基、桜島公園) 消防署に15m級はしご付消防ポンプ自動車購入配置 (15m級屈折はしご付消防ポンプ自動車廃車) 消防署救急車、広報車更新</p>
平成 4年 4月 6月 7月 10月 12月	<p>消防職員143人となる 消防署新分署起工 敷地面積3,171.50㎡ 延面積740.85㎡ 鉄筋コンクリート造一部2階建 平成5年3月竣工</p> <p>機構改革により、消防本部消防課に救急管理係を設置 耐震性貯水槽設置(1基、磯山二丁目) 救急高度化(9項目)資機材購入、本署配置</p> <p>☆白子駅前 警備会社事務所火災</p>
平成 5年 2月 3月 4月 9月 12月	<p>消防本部指揮車更新 消防ポンプ自動車1台購入 水槽付消防ポンプ自動車1台購入 救急車(9項目対応、防振ベット付)1台購入</p> <p>消防署東分署開署(中箕田町1139番地の1) 水槽付消防ポンプ自動車1台、消防ポンプ自動車1台及び救急車1台配置 消防本部1、消防署1及び分署4となる 消防職員151人となる</p> <p>救急高度化(9項目)資機材購入、南分署配置 人員搬送車 市教育委員会より移管(旧人員搬送車廃車) 耐震性貯水槽設置(1基、野辺一丁目)</p>
平成 6年 2月 3月	<p>☆算所町 店舗併用住宅火災 消防署水槽付消防ポンプ自動車1台更新</p> <p>☆白子二丁目 店舗併用住宅火災 消防緊急通信指令施設(Ⅱ型)の購入及び通信指令室を移設 耐震性貯水槽設置(1基、国府町) 消防署に高規格救急車購入配置 消防署に救急普及啓発広報車1台配置(日本損害保険協会より寄贈を受ける)</p>

年 次	で き ご と
平成 6年 3月 4月 10月	心電図電送装置2基購入設置（鈴鹿中央病院，鈴鹿回生病院） 消防署北分署救急車更新（鈴鹿ライオンズクラブより寄贈を受ける） 第7代消防長 中根 利彦 退任する 第8代消防長 浅川 守生 就任（専任）する 消防職員158人となる ☆池田町 工場火災
平成 7年 2月 3月 5月 11月 12月	☆池田町 倉庫火災 耐震性貯水槽設置（1基，稻生西二丁目） 第7代消防団長 長谷川 清一 退任し，第8代消防団長に 藤田 充 就任する 連絡車2台更新 消防庁舎改修工事着工 望楼改修，消防無線施設（パンザーマスト22.36m）設置 平成8年3月竣工 耐震性貯水槽設置（1基，南堀江一丁目）
平成 8年 1月 4月 8月 9月 10月	消防署南分署水槽付消防ポンプ自動車1台更新 消防署南分署救急車1台更新（高規格対応型救急車） 機構改革により，消防本部に消防総務課を設け，総務係及び企画研修係を設置，消防課に消防係を設置（3課1室7係となる） 消防職員163人となる 耐震性貯水槽設置（1基，御菌町） 消防署南分署に消防ポンプ自動車1台配置（日本損害保険協会より寄贈を受ける） 消防署に業務車1台，連絡車1台配置（本田技研工業株式会社より寄贈を受ける）
平成 9年 1月 2月 3月 4月 6月 8月 12月	☆大池三丁目 材木店作業場火災 消防署北分署救急車1台更新（高規格対応型救急車） 消防署化学消防車1台更新 消防職員164人となる 女性消防団員15人採用 消防庁舎耐震工事着工（消防署車庫・本部事務所） 10月竣工 赤バイ隊発足 ☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災
平成10年 2月 3月 4月	消防署西分署救急車1台更新（高規格対応型救急車） 消防署北分署消防ポンプ自動車1台更新 消防署北分署に小型動力ポンプ付水槽車購入配置 第8代消防長 浅川 守生 退任する 第9代消防長 渡部 一三 就任（専任）する 消防署南分署高規格救急車の運用を開始する 消防職員定員 165人 実員 165人 消防ポンプ自動車6台 水槽付消防ポンプ自動車6台 小型動力ポンプ付水槽車2台 化学消防ポンプ自動車1台 はしご付消防ポンプ自動車2台 救助工作車1台 救急車5台 高規格救急車2台 指揮車1台 広報車5台 救急普及啓発広報車1台 消防作業車2台 人員搬送車1台 連絡車3台 業務車1台 消防長車1台 消防団条例の改正 3方面隊から6方面隊となる

年次	できごと
平成10年 4月 9月 10月	消防団1 消防分団23 消防団員定員実員とも 455人 消防ポンプ自動車3台 小型動力ポンプ22台 同積載車22台 ☆台風7号襲来 各種災害発生 携帯電話119番受信開始 ☆南玉垣町 店舗併用住宅火災
平成11年 2月 3月 4月 7月 8月 9月 12月	☆若松中一丁目 木工所火災 消防署 救助工作車1台更新 消防職員定員165人 実員165人 鈴鹿市地域防災無線システム運用開始 紀宮内親王行啓 「第15回国際青年の村」 皇太子同妃両殿下行啓 「第11回全国農業青年交換大会」 ☆小田町国道1号線 タンクローリー火災 コンピューター西暦2000年問題 (Y2K問題)
平成12年 1月 4月 10月 11月 12月	消防署東分署救急車1台更新 (高規格対応型救急車) ☆伊船町 木工所火災 消防職員定員 170人 実員 169人 消防署北分署高規格救急車の運用を開始する 消防車に救急資器材を積載 (赤救) 試験運用開始 ☆南江島町 店舗併用住宅火災 ☆柳町 航空機事故 (ヘリコプター墜落) ☆江島本町 店舗併用事務所火災
平成13年 2月 3月 4月 7月 8月 11月	消防署救急車1台更新 (高規格救急車) 消防署北分署水槽付消防ポンプ自動車1台更新 ☆寺家町 店舗併用事務所火災 消防職員定員 172人 実員 172人 消防署西分署高規格救急車の運用を開始する 消防車に救急資器材を積載 (赤救) 本格運用開始 消防署における休日夜間住民票の写しの交付開始 ☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災 広報車1台寄贈を受ける (鈴鹿市防火協会)
平成14年 2月 3月 4月 8月	水槽付消防ポンプ自動車1台購入 救急車1台購入 (高規格対応型救急車) ☆長澤町 寺院火災 第9代消防長 渡部 一三 退任する 消防署鈴峰分署開署 (長澤町381番地) 敷地面積4,080.54㎡ 延面積733.36㎡ 鉄筋コンクリート造一部2階建 水槽付消防ポンプ自動車1台及び救急車1台配置 消防本部1, 消防署1及び分署5となる 第10代消防長 柴高 且 就任 (専任) する 消防職員定員 173人 実員 173人 機構改革により, 情報指令課を設置し, グループ制を導入 (消防本部4課9グループ・消防署1署5分署14グループ) 消防署東分署高規格救急車の運用を開始する ☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災



年次	できごと
平成14年 9月 10月 11月	<p>☆長澤町 東名阪車両火災</p> <p>☆河田町 その他（廃車置場）火災</p> <p>☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災</p> <p>消防署35m級梯子付消防自動車更新</p>
平成15年 3月 4月 11月 12月	<p>消防署救急車1台更新（高規格救急車）</p> <p>☆木田町 自動車部品工場火災</p> <p>消防職員定員 174人 実員 174人</p> <p>機構改革により、消防署に火災調査・査察グループを設置</p> <p>消防署鈴峰分署高規格救急車の運用を開始する</p> <p>消防署小型動力ポンプ付水槽車Ⅱ型更新</p> <p>消防署作業車更新</p> <p>消防署西分署消防ポンプ自動車更新</p>
平成16年 1月 3月 4月 7月 8月 11月	<p>☆住吉町 弁当販売店火災</p> <p>第10代消防長 柴高 且 退任する</p> <p>第11代消防長 河田 徹 就任（専任）する</p> <p>消防職員定員 176人 実員 176人</p> <p>消防指令センター起工</p> <p>鉄骨造平屋建220.94㎡</p> <p>平成17年3月竣工</p> <p>☆竹野二丁目 神社火災</p> <p>☆東旭が丘二丁目 中高層住宅火災</p> <p>☆大池三丁目 中高層住宅火災</p>
平成17年 2月 3月 4月 10月 12月	<p>☆南旭が丘一丁目 共同住宅火災</p> <p>消防指令センター運用開始</p> <p>消防署西分署水槽付消防ポンプ自動車1台更新</p> <p>消防署東分署水槽付消防ポンプ自動車1台更新</p> <p>第11代消防長 河田 徹 退任する</p> <p>第12代消防長 長澤 康博 就任（専任）する</p> <p>消防職員定員 179人 実員179人</p> <p>☆岸岡町 建築用資材置場火災</p> <p>消防署救急車1台更新（高規格救急車）</p>
平成18年 1月 2月 3月 4月 8月 10月	<p>新鈴鹿市庁舎竣工</p> <p>消防防災用高所カメラシステム運用開始</p> <p>消防署消防ポンプ自動車1台更新</p> <p>☆長太旭町四丁目 住居兼作業場火災</p> <p>消防署救急支援車1台更新</p> <p>防火広報車1台更新</p> <p>消防職員定員 182人 実員184人（派遣職員2人含む）</p> <p>機構改革により、消防署に指揮・調査グループを設置</p> <p>指揮支援隊の運用を開始する</p> <p>☆御菌町 廃プラスチック類処理場火災</p> <p>☆西条三丁目 工場火災</p>
平成19年 1月 3月	<p>鈴鹿市消防団防災支援協力者要綱を制定</p> <p>消防署北分署救急車1台更新（高規格救急車）</p> <p>消防署指揮車1台更新</p>

年次	できごと
平成19年 3月	第12代消防長 長澤 康博 退任する
4月	第13代消防長 児玉 忠 就任(専任)する 消防職員定員 186人 実員188人(派遣職員2人含む) 機構改革により、消防本部に政策推進担当及び住宅防火対策担当を設置 予防広報車2台更新 鈴鹿市消防団協力事業所表示制度実施要綱を制定 三重県中部を震源とするM5.4の地震が発生し、市内で震度5弱を記録する
9月	☆阿古曾町 中高層住宅火災
11月	☆若松西一丁目 一般倉庫火災
平成20年 1月	消防署西分署救急車1台更新(高規格救急車) 予防広報車1台更新
2月	☆十宮三丁目 中高層住宅火災 消防署南分署消防ポンプ自動車1台更新
3月	消防署本署水槽付消防ポンプ自動車1台更新 本部指揮車1台更新
4月	消防職員数187人(派遣職員1人含む) 機構改革により、消防署南分署を南消防署に昇格、消防署を中央消防署に名称変更する 鈴鹿市中央消防署(旧鈴鹿市消防署) 鈴鹿市中央消防署北分署(旧鈴鹿市消防署北分署) 鈴鹿市中央消防署西分署(旧鈴鹿市消防署西分署) 鈴鹿市中央消防署東分署(旧鈴鹿市消防署東分署) 鈴鹿市中央消防署鈴峰分署(旧鈴鹿市消防署鈴峰分署) 鈴鹿市南消防署(旧鈴鹿市消防署南分署)
10月	☆北堀江一丁目 硫化水素による自損事故
平成21年 3月	南消防署水槽付消防ポンプ自動車1台更新
4月	消防職員数190人 機構改革により、中央消防署に特殊災害対策担当を設置 中央消防署作業車1台更新 中央消防署東分署救急車1台更新(高規格救急車)
6月	☆大久保町 しいたけ培養施設火災
平成22年 1月	消防団防災活動車1台寄贈を受ける(日本消防協会)
4月	消防職員数192人 機構改革により、中央消防署に統括指揮隊長、庶務予防担当を設置
7月	消防本部庁舎起工
9月	☆東江島町 材木店火災
11月	☆西条三丁目 料理店火災
12月	中央消防署鈴峰分署救急車1台更新(高規格救急車) 消防団多機能型車両1台寄贈を受ける(日本消防協会) ☆中旭が丘四丁目 文具模型店火災
平成23年 2月	☆江島本町 料理店火災
3月	中央消防署15m級屈折梯子付消防自動車更新
4月	第13代消防長 児玉 忠 退任する 第14代消防長 中西 由委 就任(専任)する 消防職員数194人

年 次	で き ご と
平成23年 4月 5月 6月 10月 11月	機構改革により、中央消防署に消防団事務担当を設置 <b>☆三畑町 倉庫火災</b> 鈴鹿消防高度救急救助隊（ハート）発足 鈴鹿消防災害時情報収集員（先人隊）発足 消防長車1台寄贈を受ける（鈴鹿市防火協会） 消防本部庁舎（外構工事は未）が完成し、一部業務開始
平成24年 3月 4月 5月 6月 9月	中央消防署北分署水槽付消防ポンプ自動車1台更新 中央消防署北分署消防ポンプ自動車1台更新 中央消防署北分署救急車1台更新 第14代消防長 中西 由委 退任する 第15代消防長 <b>高畷 秀紀</b> 就任（専任）する 消防職員数198人 機構改革により、南消防署に署長補佐を設置 <b>☆平田町 自動車製造工場火災</b> 消防本部・中央消防署新庁舎竣工 中央消防署赤バイ2台更新（本田技研工業株式会社より寄贈を受ける） <b>☆山本町 製茶工場火災</b> 救急情報ネックレス事業開始
平成25年 1月 2月 3月 4月	<b>☆道伯五丁目 倉庫火災</b> 本部連絡車1台寄贈を受ける（日本消防協会） 南消防署救急車1台更新（高規格救急車） 消防職員数200人
平成26年 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月	中央消防署救急車1台更新（高規格救急車） 中央消防署北分署小型動力ポンプ付水槽車1台更新 中央消防署西分署消防ポンプ自動車1台更新 <b>☆河田町 倉庫火災</b> 第15代消防長 高畷 秀紀 退任する 第16代消防長 <b>酒井 秀郎</b> 就任（専任）する 消防職員数199人 機構改革により、情報指令課に情報管理担当を設置 <b>☆石薬師町 工場火災</b> <b>☆伊船町 木材加工工場火災</b> <b>☆住吉町 産業廃棄物リサイクル工場火災</b> 三重県に大雨特別警報が発表される
平成27年 1月 2月 3月 4月 11月 12月	<b>☆深溝町 倉庫火災</b> 中央消防署救助工作車1台更新 消防団多機能型車両1台無償貸付を受ける（総務省消防庁） <b>☆住吉町 倉庫火災</b> 消防職員数200人 南消防署救急車1台更新（高規格救急車） 高機能消防指令システム、消防救急デジタル無線の運用を開始する
平成28年 3月 4月	中央消防署救急車1台更新（高規格救急車） 第16代消防長 酒井 秀郎 退任する 第17代消防長 <b>中西 貞徳</b> 就任（専任）する 消防職員数204人

年次	できごと
平成28年	機構改革により、中央消防署に救助グループ、救急グループ及び火災調査担当を設置
4月	伊勢志摩サミット消防特別警戒に職員を派遣
5月	
6月	☆南玉垣町 工場火災
9月	鈴鹿・亀山境界付近の救急相互応援に関する覚書を締結
10月	中央消防署鈴峰分署水槽付消防ポンプ自動車1台更新
	☆国分町 鈴鹿市不燃物リサイクルセンター火災
12月	中央消防署西分署救急車1台更新（高規格救急車）
平成29年	中央消防署東分署化学消防ポンプ自動車1台更新
2月	
3月	火災等の災害時における環境調査業務等の協力に関する覚書を締結
4月	消防職員数205人
	機構改革により、中央消防署に統括指揮監、予防査察監及び副予防査察監を設置
	南消防署に予防査察監及び庶務予防担当を設置
11月	中央消防署東分署救急車1台更新（高規格救急車）
平成30年	消防職員数203人
4月	機構改革により、消防課に救急対策室を設置
	消防団定員475人 消防団本部に大規模災害対応団員を設置
5月	広報車更新
7月	緊急消防援助隊 西日本豪雨災害のため広島県へ職員派遣
8月	皇太子行啓「全国高等学校総合体育大会」
9月	火災時における消防用水の確保に関する協定書を締結
平成31年	中央消防署資機材搬送車1台更新
1月	
2月	中央消防署鈴峰分署救急車1台更新（高規格救急車）
3月	第17代消防長 中西 貞徳 退任する
4月	第18代消防長 中村 康典 就任（専任）する
	消防職員数203人
	第8代消防団長 藤田 充 退任し、第9代消防団長に 杉本 賢志 就任する
令和元年	三者間同時通訳による119番多言語対応業務運用開始
7月	
9月	広報車更新
10月	鈴鹿市及び亀山市におけるはしご自動車に関する連携協約を締結
令和2年	中央消防署北分署救急車1台更新（高規格救急車）
1月	
2月	消防団防災学習・災害活動車1台寄贈を受ける（日本消防協会）
	中央消防署西分署水槽付消防ポンプ自動車更新
3月	Net119緊急通報システム運用開始
4月	消防職員数205人
令和3年	鈴鹿市及び亀山市の共同整備で3.5m級梯子付消防自動車1台を更新
1月	
	南消防署救急車1台更新（高規格救急車）
2月	鈴鹿市及び亀山市におけるはしご自動車共同運用開始
3月	中央消防署消防ポンプ自動車1台更新
	広報車更新
4月	第18代消防長 中村 康典 退任する
	第19代消防長 落合 満弘 就任（専任）する
	消防職員数209人
	機構改革により、消防総務課に政策企画室を設置
	機構改革により、中央消防署に消防団グループを設置
11月	連絡車1台寄贈を受ける（鈴鹿市防火協会）

年次	できごと
令和4年 1月 2月 3月 4月 10月	<p>中央消防署救急車1台更新（高規格救急車）</p> <p>中央消防署指揮車1台更新</p> <p>中央消防署東分署消防ポンプ自動車1台更新</p> <p>消防職員数213人</p> <p>機構改革により、中央消防署及び南消防署に予防査察担当を設置</p> <p>映像通報システム「L I V E 1 1 9」運用開始</p>
令和5年 1月 2月 3月 4月 5月	<p>南消防署救急車1台更新（高規格救急車）</p> <p>中央消防署水槽付消防ポンプ自動車更新</p> <p>第19代消防長 落合 満弘 退任する</p> <p>第20代消防長 <b>酒井 孝明</b> 就任（専任）する</p> <p>消防職員数214人</p> <p>機構改革により、情報指令課に情報管理グループを設置</p> <p>機構改革により、中央消防署に予防査察グループ及び火災調査グループを設置</p> <p>第9代消防団長 杉本 賢志 退任し、第10代消防団長に <b>石田 久雄</b> 就任する</p> <p>南消防署天名分署開署（御菌町5309番地） 敷地面積7061.26㎡ 延面積867.89㎡（天名分団施設含む） 鉄骨造平屋建 消防ポンプ自動車1台及び救急車1台配置</p> <p>消防本部1，消防署2及び分署5となる</p>

# 消防庁舎



## 鈴鹿市消防本部・鈴鹿市中央消防署

名称	所在地	構造	床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
消防本部 中央消防署 平成 24 年 6 月	鈴鹿市飯野寺家町 217 番地 の 1 T E L : 059-382-0500 F A X : 059-383-1447	本庁舎棟 鉄筋コンクリート造 4 階建 免震構造 1 階 市民相談室・署事務室 署長室・多目的学習室 出動準備室・食堂 2 階 仮眠室・トレーニング室・倉庫 3 階 本部事務室・消防長室・次長室 消防団室・更衣室・食堂 4 階 多目的室・消防学習室 情報指令室・消防災害対策室 屋上 無線鉄塔  車庫棟 鉄骨造 2 階建 1 階 車庫・防火衣室・消毒室 救急物品庫 2 階 災害備蓄倉庫・機材置場	本庁舎棟 1 階 1,073.20 2 階 1,066.49 3 階 1,069.69 4 階 1,069.69 棟屋 42.44  車庫棟 1 階 900.00 2 階 253.32  延床面積 5,474.83	9,273.44



鈴鹿市中央消防署 北分署

名称	所在地	構造	床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
北分署 昭和 52 年 3 月	鈴鹿市高塚町 1451 番地の 65 TEL・FAX：059-378-0330	鉄筋コンクリート造平屋建 車庫・待機室・仮眠室 食堂・浴室・更衣室	295.19	1,554.33
倉庫及び機械室 昭和 52 年 3 月		鉄骨造平屋建	36.00	



鈴鹿市中央消防署 西分署

名称	所在地	構造	床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
西分署 平成 2 年 4 月	鈴鹿市国府町 3278 番地の 2 TEL・FAX：059-370-2119	鉄筋コンクリート造 2 階建 1 階 車庫・待機室・仮眠室 談話室・食堂・浴室 2 階 会議室・トレーニング室	1 階 467.11 2 階 218.06 延面積 685.17	3,527.79
訓練塔 平成 2 年 4 月		鉄筋コンクリート造 A 塔 22.00m B 塔 8.35m	320.00	



### 鈴鹿市中央消防署 東分署

名称	所在地	構造	床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
東分署 平成 5 年 3 月	鈴鹿市中箕田町 1139 番地の 1 TEL・FAX : 059-384-0119	鉄筋コンクリート造 2 階建 1 階 車庫・待機室・会議室 仮眠室・更衣室・食堂・浴室 2 階 会議室・トレーニング室	1 階 516.77 2 階 224.08 延面積 740.85	3,171.50



### 鈴鹿市中央消防署 鈴峰分署

名称	所在地	構造	床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
鈴峰分署 平成 14 年 4 月	鈴鹿市長澤町 381 番地 TEL・FAX : 059-371-0119	鉄筋コンクリート造 2 階建 1 階 車庫・待機室・仮眠室 防火衣室・食堂・浴室 2 階 会議室	1 階 535.00 2 階 198.36 延面積 733.36	4,080.54





### 鈴鹿市南消防署

名称	所在地	構造	床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
南消防署 昭和 56 年 3 月	鈴鹿市白子四丁目 16 番 5 号 TEL・FAX : 059-386-0630	鉄筋コンクリート造 2 階建 1 階 車庫・待機室・仮眠室 食堂・浴室・更衣室 2 階 署長室・トレーニング室	1 階 405.30 2 階 141.00 延面積 546.30	1,964.81



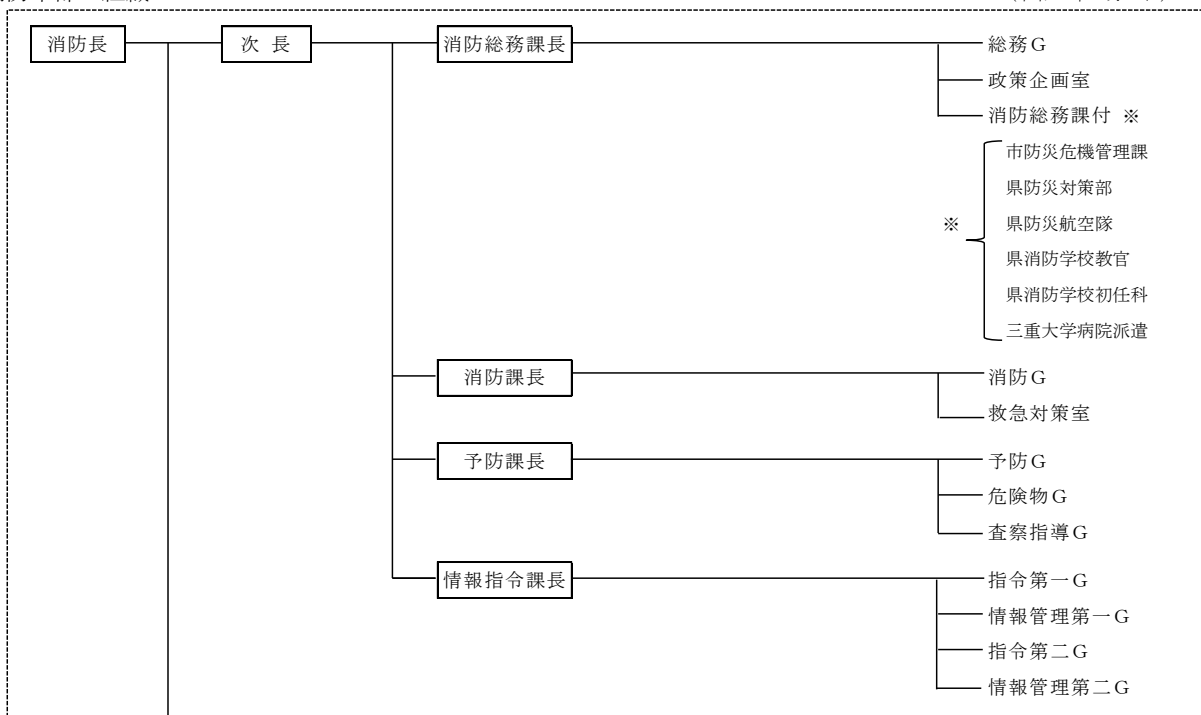
### 鈴鹿市南消防署 天名分署

名称	所在地	構造	床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
天名分署 令和 5 年 5 月	鈴鹿市御菌町 5309 番地 TEL・FAX : 059-372-3119	鉄骨造平屋建 車庫・待機室・防火衣室・仮眠室 食堂・浴室・トレーニング室 会議室兼研修室・分団施設	分署 763.89 分団 104.00	7,061.26

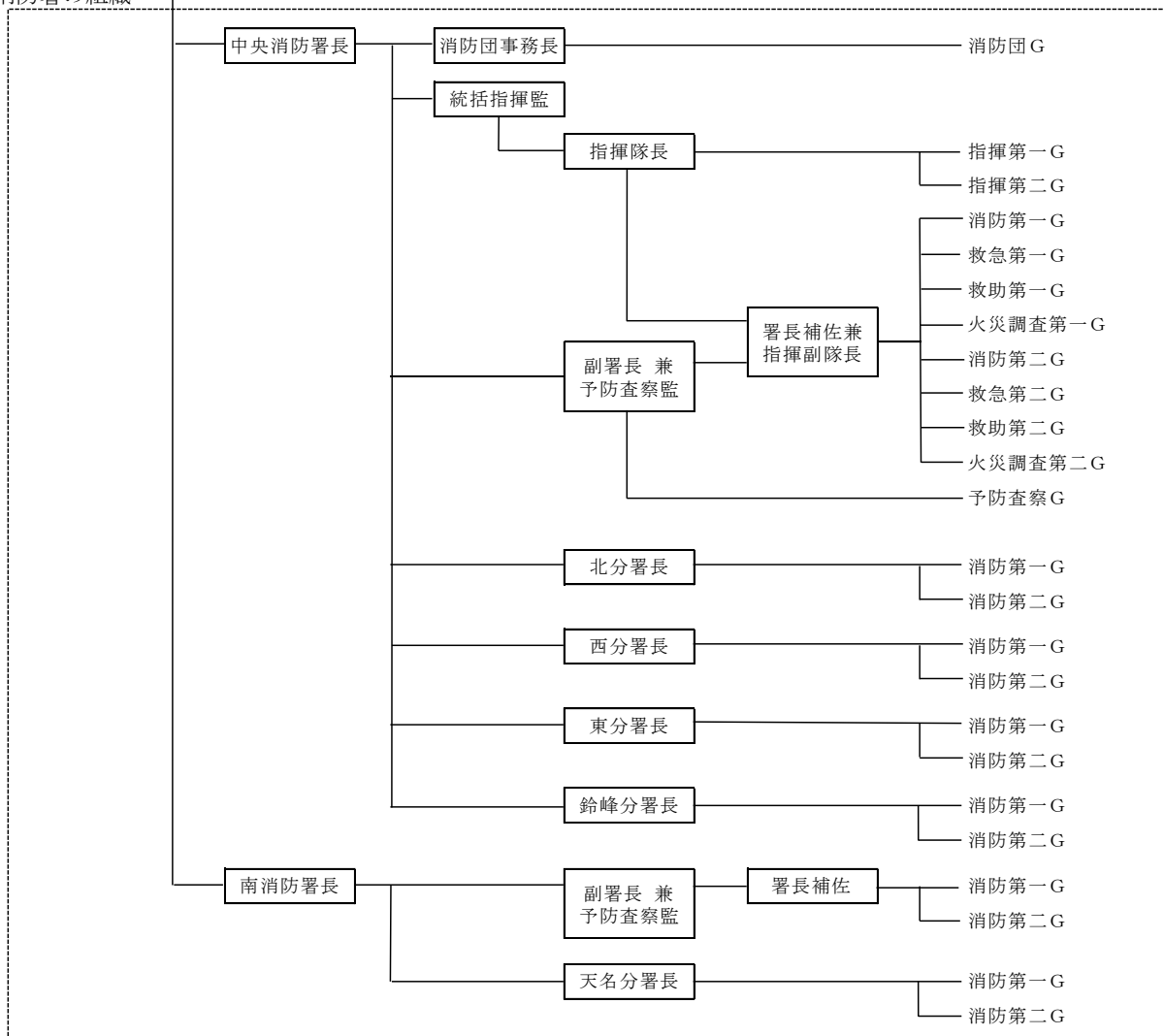
# 鈴鹿消防の組織

## 消防本部の組織

(令和5年5月1日)



## 消防署の組織



# 總務編





## 消防の予算

一般会計予算に対する消防予算（当初）

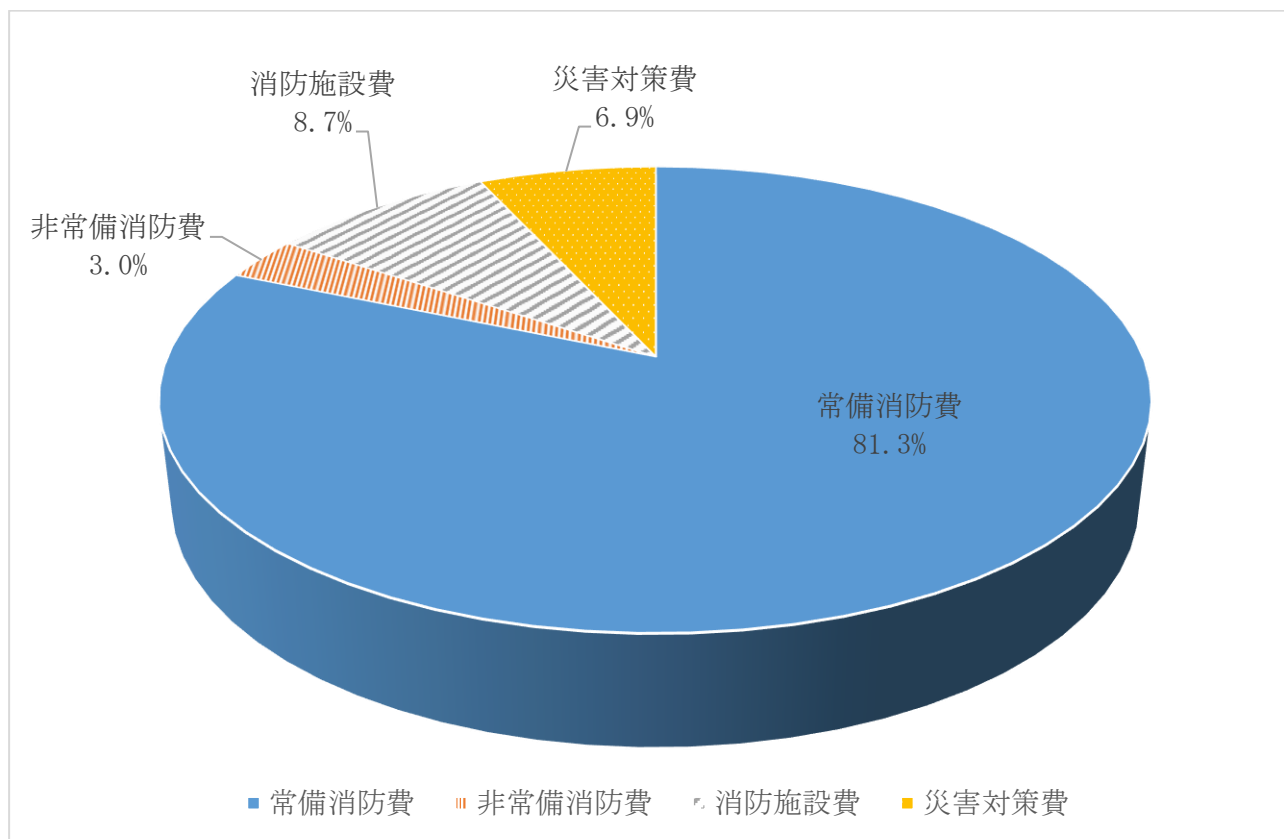
（単位：千円）

区分	年度	
	令和5年度	令和4年度
一般会計予算	69,210,000	68,245,000
消防予算	2,665,027	3,175,475
比較	3.9%	4.7%

令和5年度消防予算（当初）

費目	令和5年度		令和4年度	
	金額（千円）	構成比（%）	金額（千円）	構成比（%）
常備消防費	2,167,602	81.3	2,113,875	66.6
非常備消防費	80,663	3.0	77,023	2.4
消防施設費	233,117	8.7	759,700	23.9
災害対策費	183,645	6.9	224,877	7.1
合計	2,665,027	100.0	3,175,475	100.0

※各構成比は四捨五入しているため合計と異なる。



# 消防予算の内訳

令和5年度・令和4年度

当初の歳出消防予算

(単位：千円)

款項目	節	令和5年度	令和4年度	比較・増減
消防費	合計	<b>2,665,027</b>	<b>3,175,475</b>	<b>△510,448</b>
常備消防費	小計	<b>2,167,602</b>	<b>2,113,875</b>	<b>53,727</b>
	報酬	1,043	1,005	38
	給料	854,403	851,452	2,951
	職員手当等	775,989	774,502	1,487
	共済費	338,223	326,724	11,499
	報償費	248	317	△69
	旅費	1,801	1,631	170
	交際費	20	20	0
	需用費	88,104	63,908	24,196
	役務費	14,098	14,234	△136
	委託料	48,475	46,713	1762
	使用料及び賃借料	3,529	3,433	96
	備品購入費	2,225	748	1,477
	負担金補助及び交付金	39,444	29,188	10,256
	非常備消防費	小計	<b>80,663</b>	<b>77,023</b>
報酬		42,153	41,898	255
災害補償費		500	500	0
報償費		11,821	11,519	302
旅費		982	113	869
交際費		20	20	0
需用費		10,037	7,681	2,356
役務費		324	332	△8
委託料		1,018	1,033	△15
使用料及び賃借料		98	95	3
備品購入費		93	244	△151
負担金補助及び交付金		13,617	13,588	29
消防施設費		小計	<b>233,117</b>	<b>759,700</b>
	報償費	139	0	139
	旅費	240	262	△22
	需用費	2,329	5,302	△2,973
	役務費	47	0	47
	委託料	0	64,928	△64,928
	使用料及び賃借料	136	8,193	△8,057
	工事請負費	54,919	432,028	△377,109
	備品購入費	164,917	233,677	△68,760
	負担金補助及び交付金	10,390	15,310	△4,920
	災害対策費	小計	<b>183,645</b>	<b>224,877</b>
報酬		5,210	5,698	△488
報償費		11,587	11,587	0
旅費		101	140	△39
需用費		29,944	21,902	8,042
役務費		4,580	4,483	97
委託料		82,350	62,366	19,984
使用料及び賃借料		1,275	1,295	△20
工事請負費		37,900	60,471	△22,571
備品購入費		1,832	4,007	△2,175
負担金補助及び交付金		8,866	52,928	△44,062

△は減少を示す。

### 在職年数別消防職員数

(令和5年4月1日現在)

階級別 区分	人 員							
	合計	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防士
合計	214	1	5	12	32	65	51	48
平均勤続年数	18.4	40.0	37.6	35.8	32.1	23.4	11.8	2.8
1年未満	8							8
1年以上 5年未満	31						2	29
5年以上 10年未満	23						12	11
10年以上 15年未満	29					1	28	
15年以上 20年未満	25					17	8	
20年以上 25年未満	19					19		
25年以上 30年未満	27			1	7	19		
30年以上 35年未満	31			1	20	9	1	
35年以上 40年未満	17		4	9	4			
40年以上	4	1	1	1	1			

### 年齢別消防職員数

(令和5年4月1日現在)

階級別 区分	人 員							
	合計	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防士
合計	214	1	5	12	32	65	51	48
平均年齢	40.0	58.0	58.0	54.8	52.7	44.8	34.4	25.0
18歳以上 20歳未満	2							2
20歳以上 25歳未満	26							26
25歳以上 30歳未満	19						6	13
30歳以上 35歳未満	23						17	6
35歳以上 40歳未満	33					5	27	1
40歳以上 45歳未満	23					23		
45歳以上 50歳未満	35					35		
50歳以上 55歳未満	32			5	25	2		
55歳以上 60歳未満	21	1	5	7	7		1	
60歳以上	0							

# 消防職員資格取得状況

(令和5年4月1日現在) (単位:人)

種別		階級	合計	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防士
自動車免許	大型		169	1	4	12	31	64	49	10
	中型		20						2	18
	中型(8tに限る)		3		1			2		
	準中型(5tに限る)		3							3
	普通		19							19
大型特殊免許			7			1	3	1	1	1
自動二輪免許			95	1	1	5	16	34	25	8
けん引免許			5				1	4		
陸上特殊無線技士 第二(三)級			208	1	5	12	31	66	51	42
小型船舶操縦士			55	1	2	3	9	24	14	2
救急救命士			70			3	8	25	24	10
潜水士			70	1	4	6	16	17	17	9
電気工事士(低圧)			5				1	2	2	
消防設備士			11		1	1	1	7	1	
危険物取扱者	甲		3					1	2	
	乙		155	1	3	3	12	49	48	39
	丙		5			2	2		1	
予防技術資格者	危険物		9		1		2	5	1	
	消防用設備		8	1		1	2	4		
	防火査察		11		1	1	1	7	1	
衛生管理者			12		2	2	1	5	2	
高圧ガス製造保安責任者			3					2	1	
特別管理産業廃棄物管理責任者			23			1	3	10	9	
移動式クレーン技能者			205	1	5	12	31	66	51	39
玉掛技能講習修了者			206	1	5	12	31	66	51	40
ガス溶接技能講習修了者			136	1	5	12	31	65	22	
足場組立等作業主任者			35		1	5	9	20		
酸素欠乏危険作業主任者			81		4	8	18	36	14	1
特定化学物質作業主任者			26			2	7	10	6	1
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育			4				2	1	1	
伐木等の業務に係る特別教育			4					2	2	
無人航空機飛行許可者			11					4	5	2



# 予 防 編





# 防火対象物一覧表

(令和5年4月1日現在)

防火対象物の別		施行令第6条に規定する防火対象物	施行令第1条の2に規定する防火管理者選任に係る防火対象物		
			甲	乙	
第1項	イ	劇場・映画館・観覧場	6	4	0
	ロ	公会堂・集会場	121	34	175
第2項	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ	1	1	0
	ロ	遊技場・ダンスホール	18	8	2
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等	0	0	0
	ニ	カラオケボックス・個室ビデオ等	5	4	0
第3項	イ	待合・料理店	3	2	1
	ロ	飲食店	218	51	138
第4項		百貨店・マーケット	433	134	112
第5項	イ	旅館・ホテル・宿泊所	45	29	2
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	2,237	153	5
第6項	イ	病院・診療所・助産所	160	37	9
	ロ	老人短期入所施設等	53	39	0
	ハ	老人デイサービスセンター等	192	83	15
	ニ	幼稚園・特別支援学校	24	16	0
第7項		小, 中, 高, 大学, 各種学校	151	68	21
第8項		図書館・博物館・美術館	9	2	2
第9項	イ	蒸気浴場・熱気浴場	0	0	0
	ロ	公衆浴場	2	2	0
第10項		停車場	1	0	0
第11項		神社・寺院・教会	19	3	2
第12項	イ	工場・作業場	490	66	0
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ	2	1	0
第13項	イ	車庫・駐車場	7	0	0
	ロ	格納庫	0	0	0
第14項		倉庫	529	11	0
第15項		前各項に該当しない事業場	464	60	39
第16項	イ	特定複合用途防火対象物	703	248	51
	ロ	非特定複合用途防火対象物	108	9	0
第17項		文化財等建造物	0	0	0
合計			6,001	1,065	574

防火・防災管理者講習修了証交付状況 (令和5年4月1日現在) (単位：件)

防火対象物の区分			平成30年度 以前	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	延交付数	
特定防火対象物	第1項	イ	劇場・映画館・観覧場	89			2	91	
		ロ	公会堂・集会場	481	16	8	22	24	551
	第2項	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ	11			4		15
		ロ	遊技場・ダンスホール	205	4	2	2	2	215
		ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等	2					2
		ニ	カラオケボックス・個室ビデオ等	4	2				6
	第3項	イ	待合・料理店	11			1		12
		ロ	飲食店	561	10	10	18	11	610
	第4項		百貨店・マーケット	1,082	29	19	27	49	1,206
	第5項	イ	旅館・ホテル・宿泊所	209	6	1	5	2	223
	第6項	イ	病院・診療所・助産所	242	4	1	2	6	255
		ロ	老人短期入所施設等	461	4	5	5	5	480
		ハ	老人デイサービスセンター等	136	20	8	17	9	190
		ニ	幼稚園・特別支援学校	103	3		1	1	108
	第9項	イ	蒸気浴場・熱気浴場	2					2
	第16項	イ	特定複合用途防火対象物	638	20	11	20	26	715
非特定防火対象物			共同住宅・学校・工場・作業所等	4,492	68	74	83	86	4,803
上記以外			その他	101	7	7	9	13	137
合計				8,830	193	146	216	236	9,621

消防訓練届出状況 (単位：件)

年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度
特定防火対象物	842	848	923
非特定防火対象物	458	128	131
総件数	1,300	976	1,054

# 防火対象物建築同意件数

(令和4年度) (単位: 件)

防火対象物の区分		合計	新築	用途変更増改築	その他
第1項	イ	劇場・映画館・観覧場			
	ロ	公会堂・集会場			
第2項	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ			
	ロ	遊技場・ダンスホール			
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等			
	ニ	カラオケボックス・個室ビデオ等			
第3項	イ	待合・料理店			
	ロ	飲食店	4	3	1
第4項		百貨店・マーケット	5	5	
第5項	イ	旅館・ホテル・宿泊所			
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	12	12	
第6項	イ	病院・診療所・助産所	3	2	1
	ロ	老人短期入所施設等	1	1	
	ハ	老人デイサービスセンター等	9	7	2
	ニ	幼稚園・特別支援学校			
第7項		小, 中, 高, 大学, 各種学校	6	5	1
第8項		図書館・博物館・美術館			
第9項	イ	蒸気浴場・熱気浴場			
	ロ	公衆浴場	2	2	
第10項		停車場			
第11項		神社・寺院・教会	1		1
第12項	イ	工場・作業場	12	10	2
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ			
第13項	イ	車庫・駐車場	7	7	
	ロ	格納庫			
第14項		倉庫	20	16	4
第15項		前各項に該当しない事業場	36	32	4
第16項	イ	特定複合用途防火対象物	3	3	
	ロ	非特定複合用途防火対象物			
その他			42	41	1
合計			163	146	17

## 消防用設備等の指導

火災が発生したとき、①早く知り、知らせる ②早く消す ③安全避難が大切です。

このため消防法では、一定の防火対象物の構造、用途、規模に対応した消防用設備等の設置及び維持管理を義務付けています。

消防本部では、これらの消防用設備等が法令の技術上の基準に適合して設置され、かつ火災が発生した場合その機能に応じて、いつでも有効に働くよう維持管理の指導を行っています。

(令和5年4月1日現在)

消防用設備		設置防火対象物数	消防用設備		設置防火対象物数
消火設備	屋内消火栓設備	335	避難設備	避難器具	534
	スプリンクラー設備	167		誘導灯	2,824
	水噴霧消火設備等	174	消火活動上必要な施設	排煙設備	8
	屋外消火栓設備	280		連結送水管	96
	動力消防ポンプ設備	2		非常コンセント設備	27
警報設備	自動火災報知設備	2,584	連結散水設備	9	
	漏電火災警報器	15	無線通信補助設備	1	
	消防機関への通報設備	321	消防用水		
	非常警報設備	977			62



消防用設備検査

## 危険物の規制・指導

ガソリンや灯油などの危険物は、社会生活の向上に大きく貢献しています。

しかし、その一方で、取扱いを誤ると大規模な火災や、流出事故など社会的影響の大きい災害を引き起こす危険性があります。

これらの災害を未然に防ぐため、危険物施設等へ立ち入り、施設の維持管理状況の確認や危険物取扱者への指導を行っています。

また、毎年6月の第2週を「危険物安全週間」と定め、危険物取扱事業所の皆様には自主的な保安管理を呼びかけ、市民の皆様には、身の周りにおける危険物の正しい保管方法や、安全な取扱いを目的として安全推進を呼びかけています。



屋外タンク中間検査



危険物移動タンク貯蔵所の立入検査

## 危険物製造所等の許可の状況

(令和5年4月1日現在)

製造所	貯蔵所								取扱所					合計	少量危険物貯蔵取扱所
	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所(営業用)	給油取扱所(自家用等)	販売取扱所	一般取扱所	小計		
1	104	64	4	74	1	40	9	296	54	60	1	95	210	507	1,026

## 危険物製造所等の施設推移状況

製造所等		年度				
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
合計		535	528	523	512	507
製造所		1	1	1	1	1
貯蔵所	屋内貯蔵所	104	104	105	104	104
	屋外タンク貯蔵所	66	65	65	63	64
	屋内タンク貯蔵所	6	6	5	5	4
	地下タンク貯蔵所	83	80	78	77	74
	簡易タンク貯蔵所	1	1	1	1	1
	移動タンク貯蔵所	39	40	41	39	40
	屋外貯蔵所	9	9	9	9	9
取扱所	給油取扱所(営業用)	54	53	51	51	54
	給油取扱所(自家用等)	67	66	66	64	60
	販売取扱所	1	1	1	1	1
	一般取扱所	104	102	100	97	95

## 危険物関係手数料収入状況

令和4年度(単位:円)

合計	製造所等の許可手数料		完成検査手数料	タンク検査手数料		仮使用承認手数料	仮貯蔵承認手数料	仮取扱承認手数料
	設置	変更		水張	水圧			
1,215,700	39,000	585,000	305,500	0	0	113,400	81,000	91,800



# 警 防 編





# 消防通信施設状況

## 消防本部（署）通信施設・機器

(令和5年5月1日現在)

種別	所属別	消防本部	住吉局	中央消防署	中央消防署				南消防署	南消防署 天名分署	合計
					北分署	西分署	東分署	鈴峰分署			
消防救急デジタル無線	基地	1	1							2	
	半固定	3		2	1	1	1	1	1	11	
	移動	1		17	4	3	2	2	4	35	
	携帯			22	7	5	6	3	6	52	
署活動用携帯無線機（アナログ）				22	8	8	8	5	9	5	65
火災報知専用電話回線		14									14
指令専用回線					1	1	1	1	1	1	6
火災問合せ電話回線		1									1
高速道路専用電話		1									1
防災用携帯電話		2		1	1	1	1	1	1	1	9
FAX119		1									1
メール119		1									1
Net119 (LIVE119)		1									1
三重県防災行政無線	地上	1									1
	衛星	1									1
	可搬	1									1
市防災行政無線	半固定	1		1	1	1	1	1	1	1	8
	携帯	1		1	1	1	1	1	1		7
救急車用携帯電話		2		2	1	1	1	1	2	1	11
衛星携帯電話		2									2

## 消防団通信機器

(令和5年5月1日現在)

種別	所属別	消防団本部	分団※2	Hiまわり分団	消防本部	中央消防署	中央消防署				南消防署	南消防署 天名分署	合計
							北分署	西分署	東分署	鈴峰分署			
デジタル簡易無線機	半固定		23		2		1	1	1	1	1	1	31
	車載		24		2								26
	携帯	17	138	4	4		1	1	1	1	1	1	169

※2 市内各地区の消防分団をいう。

## 気象観測機器

(令和5年5月1日現在)

計器種類	温度計	湿度計	風速計	風向計	気圧計	雨量計
設置数	1	1	1	1	1	1

## 緊急通報取扱状況

[災害種別取扱状況]

(単位：件)

月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
火災	7	5	9	3	8	6	5	7	7	4	7	4	72
救急	828	761	742	772	842	784	1065	1170	912	833	862	1025	10,596
救助	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	5
救急救助	5	2	3	4	2	4	6	1	4	3	7	8	49
※その他	29	17	23	10	16	14	30	19	27	28	22	22	257
第二報以下	47	40	52	36	35	45	58	48	34	30	31	46	502
誤報	68	78	58	68	60	80	85	76	81	60	45	96	855
いたずら	21	21	14	17	18	16	12	16	21	12	22	28	218
問い合わせ	59	52	56	63	72	50	91	126	73	70	71	80	863
通報訓練	25	25	75	41	49	41	16	22	60	65	67	51	537
他市転送	23	17	19	26	25	24	38	43	31	36	20	36	338
合 計	1112	1018	1052	1040	1128	1064	1406	1529	1250	1142	1155	1396	14,292

※その他とは、警戒・調査等の通報をいう。

[受付別取扱状況]

(単位：件)

月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
一般119	161	145	143	170	157	147	165	183	186	153	164	171	1,945
携帯119	600	597	549	599	646	647	879	993	728	686	668	816	8,408
IP119	300	239	327	247	299	244	321	316	300	266	290	363	3,512
※その他	51	37	33	24	26	26	41	37	36	37	33	46	427
合 計	1112	1018	1052	1040	1128	1064	1406	1529	1250	1142	1155	1396	14,292

※その他とは、一般加入電話・駆けつけ等で受け付けたものをいう。

※回線テスト等での受け付けは、件数には含まない。



# 消防車両現有状況

(令和5年5月1日現在) (単位：台)

車種名	配置所属								
	消防本部	中央消防署	北分署	西分署	東分署	鈴峰分署	南消防署	天名分署	車種別計
連絡車等	8								8
指揮車		1							1
消防ポンプ自動車 CD- I 型		2	1	1	1		1	1	7
水槽付消防ポンプ自動車 I-A 型		1	1				1		3
水槽付消防ポンプ自動車 I-B 型				1		1			2
水槽付消防ポンプ自動車 II-A 型		1							1
救助工作車 II 型		1							1
はしご付消防自動車 35m級		1							1
はしご付消防自動車 15m級		1							1
化学消防ポンプ自動車 II 型		1							1
小型動力ポンプ付水槽車(水 10,000ℓ)		1							1
小型動力ポンプ付水槽車(水 5,000 ℓ)			1						1
高規格救急自動車		3	1	1	1	1	2	1	10
広報車等		3							3
消防団多機能車		3							3
消防用バイク		2							2
配置所属別計	8	21	4	3	2	2	4	2	46

●令和4年度の更新車両

◎中央消防署配備

水槽付消防ポンプ自動車 II-A 型



◎南消防署配備

高規格救急車



◎南消防署天名分署配備

消防ポンプ自動車 CD- I 型 (水槽付)



◎南消防署天名分署配備

高規格救急車



# 消防水利状況

(令和5年4月1日現在)

種別 地区	消火栓 (基)			防火水槽 (基)									
	合計	150 mm 以上	150 mm 未満	合計	耐震	100 m <sup>3</sup> 以上	耐震	60 m <sup>3</sup> 以上	耐震	40 m <sup>3</sup> 以上	耐震	20 m <sup>3</sup> 以上	20 m <sup>3</sup> 未満
国府	157	88	69	23	15	1	1			18	14	3	1
庄野	57	31	26	6	5					6	5		
加佐登	65	24	41	12	7					9	7	3	
牧田	168	83	85	14	14	1	1			13	13		
石薬師	103	43	60	20	7	1	1			12	6	4	3
白子	325	149	176	20	15	2	2			16	13	2	
稲生	161	67	94	19	11	2	1	1		16	10		
飯野	171	91	80	24	14	1	1	1		19	13	3	
河曲	123	51	72	28	13	1	1	1	1	16	11	9	1
一ノ宮	194	44	150	18	13	2	1			14	12	2	
箕田	62	31	31	5	3	1	1	1		2	2	1	
玉垣	296	161	135	24	21	1	1			21	20		2
若松	121	47	74	11	8	1	1			7	7	3	
神戸	79	38	41	6	4	2	2			3	2	1	
栄	146	72	74	23	8	4	1	1		10	7	4	4
天名	46	18	28	20	5	1	1	1		12	4	6	
合川	38	8	30	18	4					10	4	7	1
井田川	34	19	15	9	3			1	1	8	2		
久間田	40	27	13	27	3					17	3	8	2
椿	63	6	57	32	8			1		21	8	10	
深伊沢	59	25	34	23	8					22	8	1	
鈴峰	101	24	77	39	13					23	13	15	1
庄内	45	7	38	28	11	1		3		16	11	8	
合計	2,654	1,154	1,500	449	213	22	16	11	2	311	195	90	15

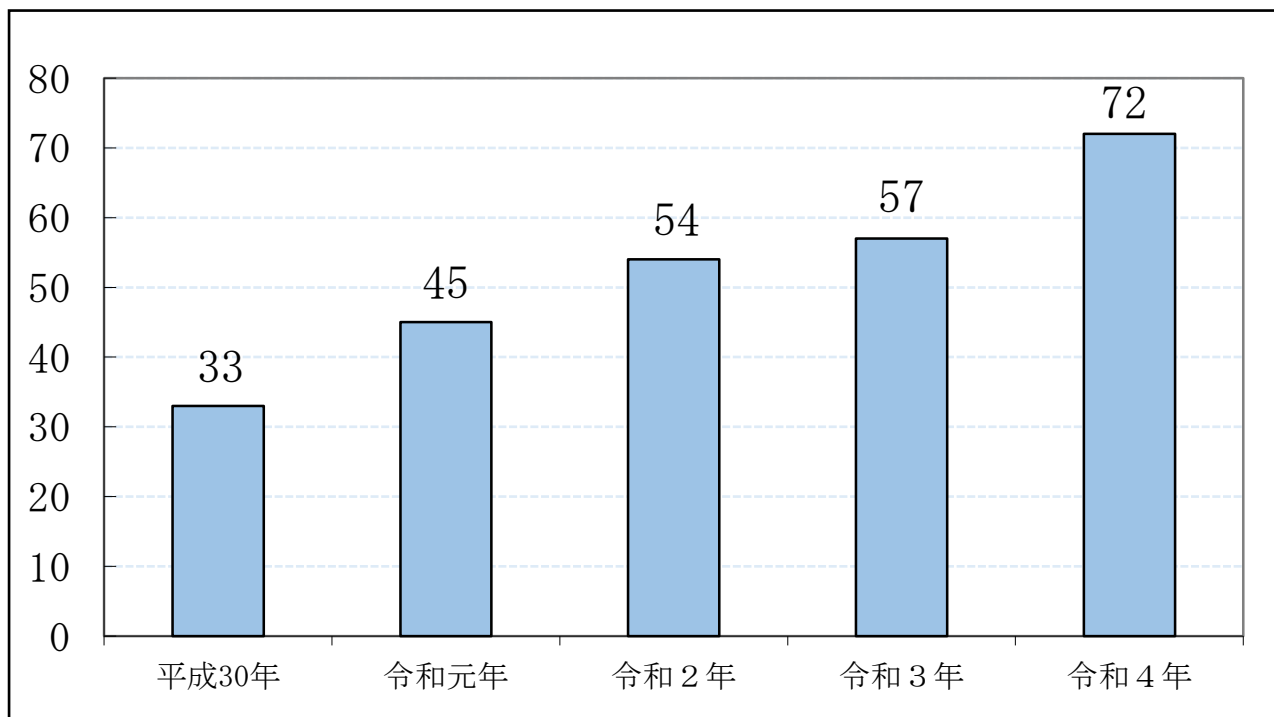
# 火災統計編

---





## 火災件数の推移（過去5年間）



## 火災種別構成比

（単位：件）

火災種別	令和3年	令和4年	前年比	構成比
建物火災	32	34	2	47.2 %
林野火災	3	3	0	4.2 %
車両火災	7	7	0	9.7 %
船舶火災	0	0	0	0.0 %
その他火災	15	28	13	38.9 %
総火災件数	57	72	15	100 %

## 用途別建物火災の状況

（単位：件）

用途別	令和3年	令和4年	前年比
専用住宅	7	10	3
共同住宅	2	9	7
倉庫	5	3	△2
店舗	5	3	△2
工場・作業場	6	5	△1
複合用途	3	2	△1
その他	4	2	△2
合計	32	34	2

△は減少を示す。

## 出火原因

(単位：件)

出火原因	令和3年	令和4年	前年比
たばこ	2	7	5
こんろ	3	7	4
たき火	9	17	8
放火・放火の疑い	7	12	5
衝突による発火	1	0	△1
排気管・排気ダクト	3	3	0
電気機械	0	0	0
電気機器	0	0	0
配電器具	1	3	2
電灯・電話等の配線	2	1	△1
漏電による発熱	1	0	△1
乾燥機	1	0	△1
溶接・溶断	3	2	△1
ストーブ	0	1	1
マッチ・ライター	1	1	0
火遊び	1	1	0
その他	2	9	7
不 明	20	7	△13
調査中	0	1	1
合計	57	72	15

△は減少を示す。

## 死傷者数

(単位：人)

	令和3年	令和4年	前年比
死者数	5	2	△ 3
負傷者数	4	5	1

△は減少を示す。

## 火災損害等

(単位：件)

	令和3年	令和4年	前年比
建物焼損 床面積 (㎡)	2,050	1,102	△948
建物焼損 表面積 (㎡)	502	146	△356
車両 焼損数 (台)	16	14	△2
林野 焼損面積 (a)	15	16	1
損害額 (千円)	103,811	90,736	△13,075

△は減少を示す。

# 救急・救助統計編

---



## 救急概要

令和4年中における救急活動の現状をみると、救急出動件数は10,755件（前年比1,848件増）、搬送人員は9,864人（前年比1,621人増）となりました。

このことは、本市消防署の救急隊が1日平均約29.5件（前年24.4件）の割合で救急出動し、1日あたり約27.0人（前年22.6人）を搬送したことになります。

## 救急活動の現状

	出動件数	搬送件数	不搬送	搬送人員		
				男	女	計
令和4年中	10,755	9,803	952	5,227	4,637	9,864
令和3年中	8,907	8,199	708	4,332	3,911	8,243
増 減	1,848	1,604	244	895	726	1,621
1日平均 (令和4年中)	29.5	26.9	2.6	14.3	12.7	27.0

△は減少を示す。

## 過去5年間の救急活動状況

事故種別		年				
		平成30年中	令和元年中	令和2年中	令和3年中	令和4年中
火災	出動件数	19	17	20	24	27
	搬送人員	5	4	3	3	7
自然災害	出動件数	5	0	0	0	0
	搬送人員	5	0	0	0	0
水難	出動件数	1	5	2	2	9
	搬送人員	0	3	0	1	2
交通事故	出動件数	919	867	688	726	779
	搬送人員	909	875	682	696	732
労働災害	出動件数	119	92	76	72	91
	搬送人員	116	90	75	72	89
運動競技	出動件数	75	54	37	47	64
	搬送人員	74	54	35	48	64
一般負傷	出動件数	1,295	1,378	1,295	1,360	1,601
	搬送人員	1,176	1,247	1,187	1,258	1,469
加害	出動件数	47	32	30	23	24
	搬送人員	35	26	24	18	17
自損行為	出動件数	66	64	77	78	62
	搬送人員	42	35	47	53	31
急病	出動件数	6,436	6,061	5,642	5,772	7,291
	搬送人員	5,842	5,483	5,205	5,318	6,684
その他	出動件数	808	861	759	803	807
	搬送人員	778	823	720	776	769
合計	出動件数	9,790	9,431	8,626	8,907	10,755
	前年比増減	498	△359	△805	281	1,848
	搬送人員	8,982	8,640	7,978	8,243	9,864
	前年比増減	443	△342	△662	265	1,621

△は減少を示す。

## 月別出動件数及び搬送人員

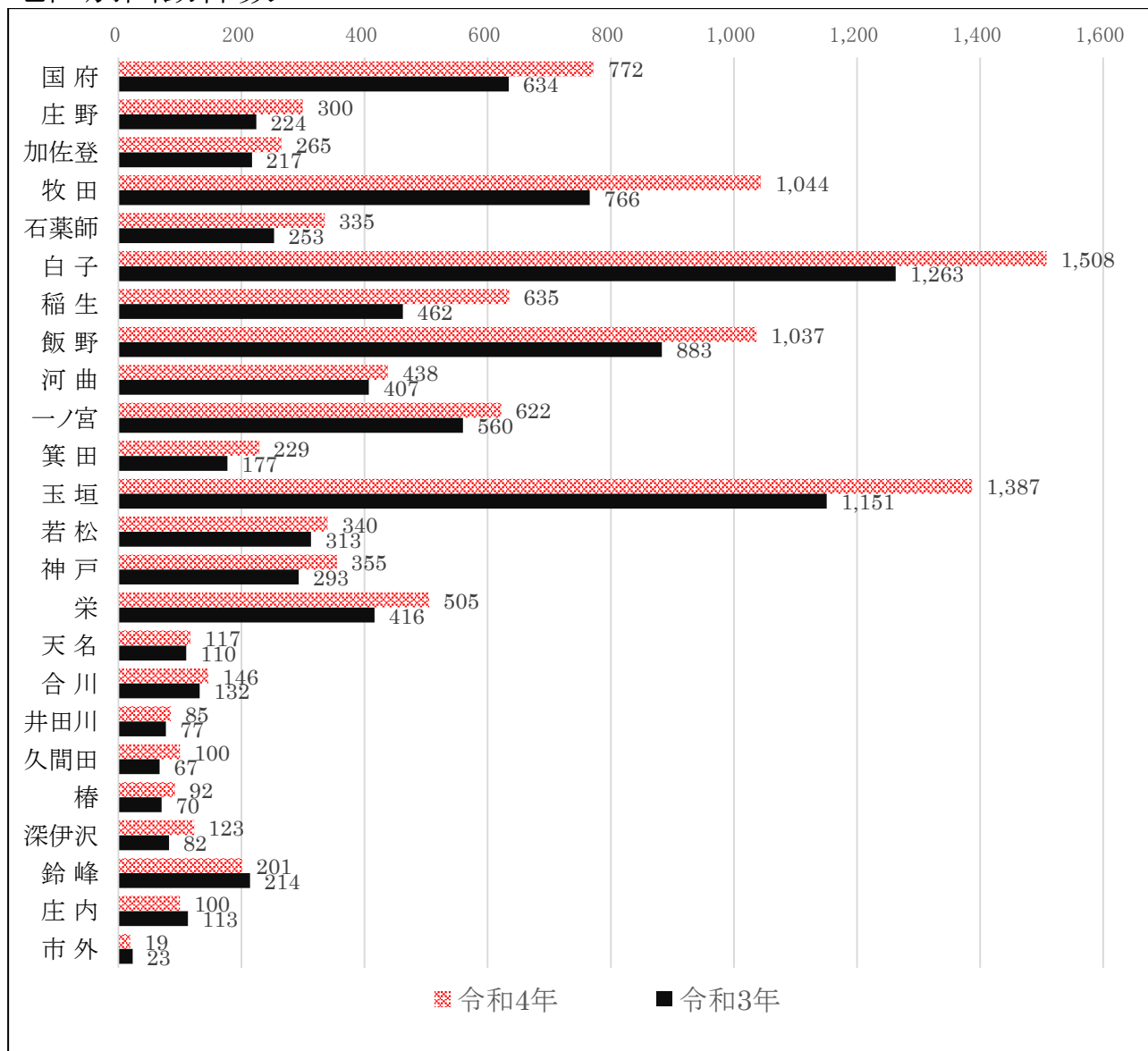
事故種別		月別												合計	構成比 (%)
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
合計	出動件数	841	766	771	781	854	796	1,076	1,174	935	846	871	1,044	10,755	
	搬送人員	781	684	713	723	768	743	995	1,057	859	776	800	965	9,864	
火災	出動件数	3	1	1	2	2	1	2	2	4	2	3	4	27	0.3%
	搬送人員	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	3	7	0.1%
自然災害	出動件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	搬送人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
水難	出動件数	1	0	1	0	2	0	0	0	2	1	2	0	9	0.1%
	搬送人員	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.0%
交通事故	出動件数	55	51	53	62	55	76	84	50	67	70	80	76	779	7.2%
	搬送人員	55	43	53	58	50	75	74	43	69	60	82	70	732	7.4%
労働災害	出動件数	9	8	8	3	8	6	10	11	9	6	4	9	91	0.8%
	搬送人員	9	8	8	2	8	6	9	11	9	6	4	9	89	0.9%
運動競技	出動件数	4	1	1	5	8	3	14	2	5	5	9	7	64	0.6%
	搬送人員	4	1	1	5	8	3	14	2	5	5	9	7	64	0.6%
一般負傷	出動件数	131	140	118	118	134	118	153	118	118	148	150	155	1,601	14.9%
	搬送人員	117	125	107	112	117	111	141	112	114	136	133	144	1,469	14.9%
加害	出動件数	6	1	2	1	2	2	0	2	2	3	2	1	24	0.2%
	搬送人員	4	0	1	1	1	1	0	2	2	2	2	1	17	0.2%
自損行為	出動件数	5	6	5	3	11	7	4	7	3	4	5	2	62	0.6%
	搬送人員	3	2	2	1	6	5	1	2	2	3	3	1	31	0.3%
急病	出動件数	566	496	523	517	567	525	726	909	661	561	548	692	7,291	67.8%
	搬送人員	530	446	482	477	514	489	678	817	596	519	500	636	6,684	67.8%
その他	出動件数	61	62	59	70	65	58	83	73	64	46	68	98	807	7.5%
	搬送人員	59	59	58	66	63	53	77	68	60	45	67	94	769	7.8%

※端数処理（四捨五入）のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合がある。

## 時間別出動件数及び搬送人員

区分		事故種別		合計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
		出動件数	搬送人員												
合計	出動件数	10,755	27	0	9	779	91	64	1,601	24	62	7,291	807		
	搬送人員	9,864	7	0	2	732	89	64	1,469	17	31	6,684	769		
時間別 内訳	0～2	出動件数	504	1	0	0	20	1	0	58	3	2	412	7	
		搬送人員	438	0	0	0	17	1	0	47	2	1	365	5	
	2～4	出動件数	418	3	0	1	11	0	0	43	1	1	352	6	
		搬送人員	373	0	0	0	7	0	0	38	1	1	320	6	
	4～6	出動件数	449	1	0	0	20	0	0	46	1	3	372	6	
		搬送人員	410	0	0	0	20	0	0	43	1	1	339	6	
	6～8	出動件数	772	2	0	2	71	6	0	118	4	8	547	14	
		搬送人員	684	0	0	0	61	6	0	110	3	2	491	11	
	8～10	出動件数	1,248	3	0	1	81	19	7	194	1	7	825	110	
		搬送人員	1,185	1	0	0	76	19	7	188	0	5	785	104	
	10～12	出動件数	1,235	4	0	1	101	19	15	174	2	6	727	186	
		搬送人員	1,135	3	0	0	95	18	15	163	2	4	655	180	
	12～14	出動件数	1,188	5	0	0	89	11	15	178	2	5	747	136	
		搬送人員	1,117	1	0	0	87	11	15	163	1	3	705	131	
	14～16	出動件数	1,063	2	0	1	90	15	13	175	0	4	652	111	
		搬送人員	992	0	0	1	87	15	13	165	0	3	600	108	
	16～18	出動件数	1,110	2	0	2	95	12	8	189	2	8	682	110	
		搬送人員	1,024	1	0	1	85	12	8	173	2	4	630	108	
	18～20	出動件数	1,148	2	0	0	100	3	1	179	2	9	790	62	
		搬送人員	1,062	0	0	0	100	2	1	167	1	3	730	58	
20～22	出動件数	894	0	0	1	62	3	5	148	5	5	626	39		
	搬送人員	796	0	0	0	57	3	5	127	3	2	566	33		
22～24	出動件数	726	2	0	0	39	2	0	99	1	4	559	20		
	搬送人員	648	1	0	0	40	2	0	85	1	2	498	19		

## 地区別出動件数



## 年齢区分別搬送人員

年齢区分	令和4年中	令和3年中	前年比	総数に占める割合 (令和4年中) (%)	1日当たりの搬送人員 (令和4年中) (人)
新生児	27	24	3	0.3	0.1
乳幼児	579	452	127	5.9	1.6
少年	404	348	56	4.1	1.1
成人	3,307	2,919	388	33.5	9.1
高齢者	5,547	4,500	1,047	56.2	15.2
合計	9,864	8,243	1,621	100.0	27.0

※端数処理（四捨五入）のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合がある。

※新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者



## 現場到着所要時間別出動件数

出動件数						合計	(覚知から現場到着まで) 現場到着所要時間 平均(分)
3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	合計		
81	321	6,885	3,381	87	10,755	8.7	

## 収容所要時間別搬送人員

搬送人員							合計	(覚知から病院収容まで) 収容所要時間 平均(分)
10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	合計		
1	109	1,652	7,646	443	13	9,864	39.1	

## 医療機関別搬送人員

医療機関	市内病院								市外病院					その他	合計
	救急告示病院			その他					国立病院	公立病院	公的病院	私的病院	私的診療所		
	公的病院	私的病院	私的診療所	国立病院	公立病院	公的病院	私的病院	私的診療所							
搬送人員	5,285	3,225	0	9	0	19	14	191	429	612	25	43	12		
小計	8,743								1,121					0	9,864

## 応急手当普及啓発活動状況

	普通救命Ⅰ講習		普通救命Ⅲ講習		上級救命講習		応急手当指導員		応急手当普及員		その他の講習		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
令和4年	46	734	6	94	4	71	1	2	1	11	69	2,682	127	3,594

## 救助出動の状況 月別出動件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年中	令和3年中
出動件数	7	5	5	3	4	5	6	3	9	7	11	10	75	56
救助件数	4	4	4	1	4	3	3	2	7	5	8	6	51	31
救助人員	3	3	3	2	4	3	3	2	7	5	7	6	48	34

※救助件数とは、出動件数のうち消防機関が何らかの救助活動を行った件数である。

※救助人員とは、救助活動により救出された人員である。

## 事故種別・発生場所別出動状況

(単位：件)

事故種別 発生場所		火災		交通 事故	水難 事故	風水害 等自然 災害	機械に よる 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	破裂 事故	その他 の事 故	計
		建物	以外									
屋内	住居	1 (0)						21 (15)				22 (15)
	その他の屋内			1 (0)							1 (0)	2 (0)
屋外	道路	高速自動車国道		1 (1)								1 (1)
		その他の道路		1 (0)	29 (17)							30 (17)
	水面	内水面				4 (3)						4 (3)
		外水面				4 (2)						4 (2)
	山岳										4 (5)	4 (5)
	その他の屋外			2 (1)							6 (4)	8 (5)
地下												0 (0)
その他												0 (0)
合計		1 (0)	1 (0)	33 (19)	8 (5)	0 (0)	0 (0)	21 (15)	0 (0)	0 (0)	11 (9)	75 (48)

( )内は、救助人員を示す。

# 消防団編





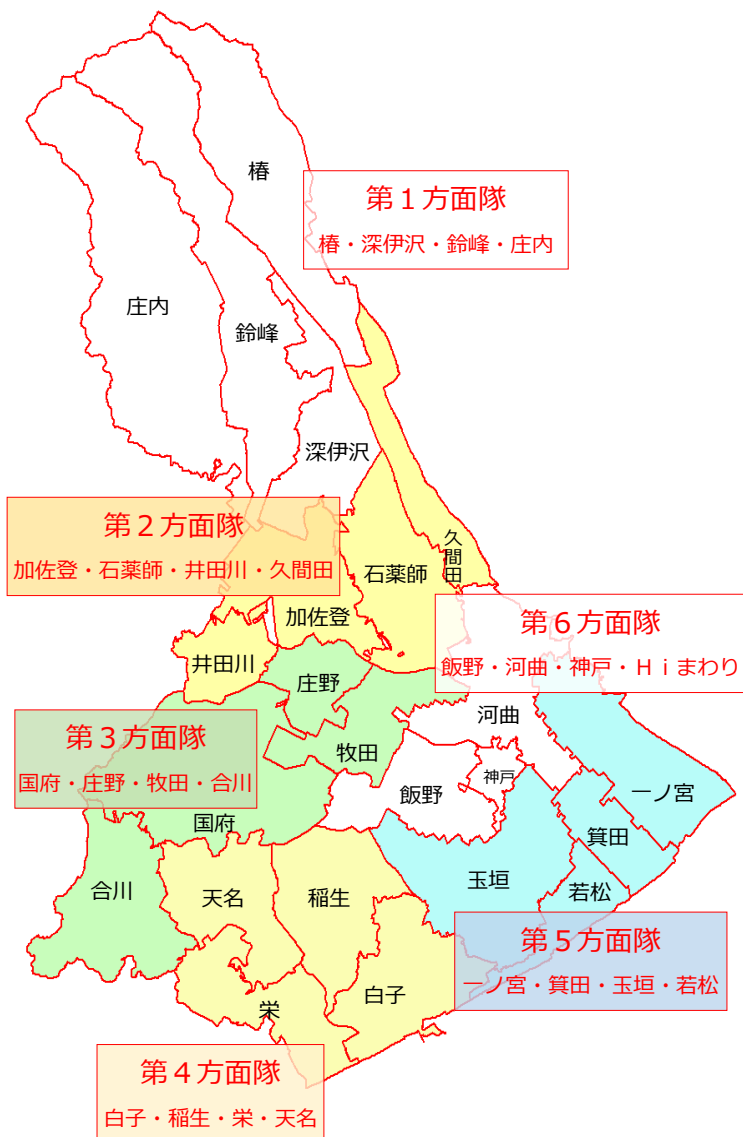
# 消防団組織図

(令和5年4月1日現在)

市長	団本部		
	団長	1人	(1)
	副団長	6人	(6)
	団本部付き	4人	
	大規模災害対応団員	20人	(20)

消防団員定数 475人

消防団員実数 463人



第1方面隊		
樺分団	20人	(20)
深伊沢分団	20人	(20)
鈴峰分団	22人	(22)
庄内分団	20人	(22)

第2方面隊		
加佐登分団	16人	(17)
石薬師分団	16人	(17)
井田川分団	17人	(17)
久間田分団	19人	(20)

第3方面隊		
国府分団	16人	(18)
庄野分団	16人	(17)
牧田分団	16人	(18)
合川分団	20人	(21)

第4方面隊		
白子分団	22人	(22)
稻生分団	17人	(17)
栄分団	17人	(17)
天名分団	20人	(20)

第5方面隊		
一ノ宮分団	18人	(18)
箕田分団	17人	(17)
玉垣分団	18人	(19)
若松分団	17人	(19)

第6方面隊		
飯野分団	17人	(18)
河曲分団	17人	(18)
神戸分団	19人	(19)
Hiまわり分団	15人	(15)

( )内数字は定数を示す。

# 消防団員現勢

(令和5年4月1日現在)

階級別 団別	人 員							
	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
合計	463 (475)	1	6	24	24	24	70	314
団本部	31 (27)	1	6					24
国府	16 (18)			1	1	1	3	10
庄野	16 (17)			1	1	1	3	10
加佐登	16 (17)			1	1	1	3	10
牧田	16 (18)			1	1	1	3	10
石薬師	16 (17)			1	1	1	3	10
白子	22 (22)			1	1	1	3	16
稲生	17 (17)			1	1	1	3	11
飯野	17 (18)			1	1	1	3	11
河曲	17 (18)			1	1	1	3	11
一ノ宮	18 (18)			1	1	1	3	12
箕田	17 (17)			1	1	1	3	11
玉垣	18 (19)			1	1	1	3	12
若松	17 (19)			1	1	1	3	11
神戸	19 (19)			1	1	1	3	13
栄	17 (17)			1	1	1	3	11
天名	20 (20)			1	1	1	3	14
合川	20 (21)			1	1	1	3	14
井田川	17 (17)			1	1	1	3	11
久間田	19 (20)			1	1	1	3	13
椿	20 (20)			1	1	1	3	14
深伊沢	20 (20)			1	1	1	3	14
鈴峰	22 (22)			1	1	1	3	16
庄内	20 (22)			1	1	1	3	14
Hiまわり	15 (15)			1	1	1	1	11

( ) 内数字は定数を示す。

## 在職年数別消防団員数

(令和5年4月1日現在)

階級別 団別	人 員							
	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
合計	463	1	6	24	24	24	70	314
平均年数	10.7	37.0	35.5	25.6	19.3	19.0	15.0	6.7
1年未満	37							37
1年以上 5年未満	109			1	2	1	4	101
5年以上 10年未満	106			1	2	1	13	89
10年以上 15年未満	73			2	2	3	13	53
15年以上 20年未満	58			2	5	6	24	21
20年以上 25年未満	39		1	2	5	10	12	9
25年以上 30年未満	24		1	8	7	2	4	2
30年以上 35年未満	5		1	2				2
35年以上 40年未満	8	1		5	1	1		
40年以上	4		3	1				

## 年齢別消防団員数

(令和5年4月1日現在)

階級別 団別	人 員							
	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
合計	463	1	6	24	24	24	70	314
平均年齢	45.6	68.0	64.1	55.5	51.4	51.1	49.5	42.6
18歳以上 20歳未満	4							4
20歳以上 25歳未満	7							7
25歳以上 30歳未満	14							14
30歳以上 35歳未満	27			1		1		25
35歳以上 40歳未満	63				2		4	57
40歳以上 45歳未満	102			2	2	4	13	81
45歳以上 50歳未満	81			2	6	5	22	46
50歳以上 55歳未満	80		1	5	5	4	13	52
55歳以上 60歳未満	50			5	4	5	16	20
60歳以上 65歳未満	25		2	5	5	5	1	7
65歳以上	10	1	3	4			1	1

# 消防団消防自動車現有状況

(令和5年4月1日現在)

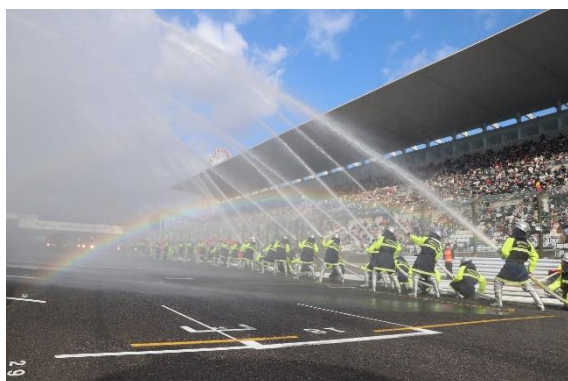
所属	種別	車名	年式	種別	ポンプ製造	経過年数
国府分団		日産	H31	小型動力ポンプ付積載車	トーハツ	4
庄野分団		〃	H29	〃	シバウラ	6
加佐登分団		〃	H27	〃	ラビット	8
牧田分団		〃	H28	〃	トーハツ	7
石薬師分団		〃	R2	〃	シバウラ	3
白子分団		トヨタ	H27	消防ポンプ自動車CD-I型	GMいちほら	8
稲生分団		〃	R5	小型動力ポンプ付積載車	トーハツ	0
飯野分団		日産	H31	〃	〃	4
河曲分団		〃	H25	〃	〃	10
一ノ宮分団		〃	H26	〃	シバウラ	9
箕田分団		〃	H30	〃	〃	5
玉垣分団		トヨタ	R3	〃	〃	2
若松分団		日産	H30	〃	〃	5
神戸分団		日野	H29	消防ポンプ自動車CD-I型	GMいちほら	6
栄分団		日産	H28	小型動力ポンプ付積載車	トーハツ	7
天名分団		トヨタ	R4	〃	シバウラ	1
合川分団		日産	R2	〃	〃	3
井田川分団		トヨタ	R5	〃	〃	0
久間田分団		いすゞ	H21	消防ポンプ自動車CD-I型	モリタ	14
椿分団		日産	H30	小型動力ポンプ付積載車	シバウラ	5
		〃	H25	〃	トーハツ	10
深伊沢分団		〃	H29	〃	シバウラ	6
鈴峰分団		〃	H26	〃	〃	9
庄内分団		〃	H27	〃	ラビット	8



# 消防団主要行事

(令和4年度)

月別	消防団行事	月別	消防団行事
4月	団幹部会議(第1回) 分団長会議(第1回) 分団長事務研修 三重県消防操法大会出場結団式 若松分団激励会 新・天名分団施設起工式	11月	三重県消防殉職者慰霊祭 三重県消防協会 代議員会 河曲地区総合防災訓練 秋季火災予防運動 三重県消防協会北勢支会 団長等先進地視察研修 全国女性消防団活性化徳島大会 方面隊訓練(消防署連携訓練)
5月	三重県消防協会北勢支会 評議員会 消防団教養訓練 鈴鹿市防災会議	12月	活性化対策検討委員会(第3回) 団幹部会議(第4回) 分団長会議(第3回) 年末消防ポンプ等点検 野洲市消防団意見交換会 歳末特別警戒
6月	方面隊会議 水防工法講習会 消防学校入校(普通科) 三重県消防協会 代議員会 三重県消防操法大会出場壮行会	1月	鈴鹿市消防出初式 文化財施設消防訓練 大規模災害対応団員 情報収集実働訓練 消防学校一日入校(警防講習会) 消防学校一日入校(指揮幹部科現場指揮課程)
7月	団幹部会議(第2回) 分団長会議(第2回) 鈴鹿地区消防協議会 定例会 三重県消防操法大会	2月	団幹部会議(第5回) 分団長会議(第4回) 消防学校入校(団長科) 消防学校入校(機関員科) 消防学校一日入校(警防講習会) 三重県消防協会 教養研修 鈴鹿地区消防協議会 視察研修 三重県消防協会北勢支会 消防団長等研修 消防団幹部候補中央特別研修
8月	活性化対策検討委員会(第1回) 三重県消防協会北勢支会 正副支会長会議 若松分団報告会	3月	春季火災予防運動 第75回日本消防協会定例表彰式 (特別表彰「まとい」受賞) 三重県消防大会 三重県消防協会北勢支会 評議員会 大規模災害対応団員情報収集訓練
9月	団幹部会議(第3回) 消防学校入校 (指揮幹部科分団指揮課程指導員科①)		
10月	活性化対策検討委員会(第2回) 消防学校入校 (指揮幹部科分団指揮課程指導員科②) 三重県青年・女性消防団員研修及び交流会 鈴鹿市総合防災訓練		



鈴鹿市消防出初式



第75回日本消防協会定例表彰式

鈴鹿市消防本部

住 所：三重県鈴鹿市飯野寺家町217番地の1

TEL：(059) 382-0500 (代)

FAX：(059) 383-1447

メール：[shobosomu@city.suzuka.lg.jp](mailto:shobosomu@city.suzuka.lg.jp)